

創刊 40 巻特集

“三菱重工の昨日・今日・あした”
の発刊に際して

取締役社長 西 岡 喬



“三菱重工技報”は、1964年（昭和39年）6月1日に旧三菱三重工が合併した直後の7月に創刊して以来、本年度40巻を迎えることになりました。“三菱重工技報”は、3社でそれぞれ発行していた“技報”を継承し、“社内における実験・研究の成果、新しい管理手法などを内外に発表し、当社の技術に対してご理解を願うとともに社内技術者の研さんの資とし、また社外からのご指導、ご批判を得てわれわれの指針とする”ものとして創刊しました。

創刊当時は高度成長期の真っただ中にあり、船舶技術はもとより、いち早くライセンス導入をした航空機、ボイラ、タービン、ディーゼルエンジンなどの技術を自分のものとするべく活発な試験研究を行い、一方では集塵装置や各種産業機械へとライセンス導入を拡大し、製品数の増加を図り事業を拡大させていた時期であり、“三菱重工技報”では、船舶・ボイラ・船用ディーゼルエンジンなどの先端製品技術と、それらの製品を支える溶接や材料・流体などの基礎要素技術の紹介をしまりました。

東京オリンピック、大阪万国博覧会の開催で日本の交通事情が一変した1970年（昭和45年）には“橋梁特集”を発刊して長大橋時代に対処した当社の技術力を内外に示しました。また、70年代の大気汚染が問題提起された時代には公害防止機器関連の特集を、1973年（昭和48年）のオイルショック以降には資源エネルギー特集を組むなど、時代の要求に即した特集により当社の製品・技術を紹介してまいりました。

本特集“三菱重工の昨日・今日・あした”は、技術立国の一翼を担ってきた重工業メーカーである当社の過去・現在・未来を語るものです。

50年代から60年代にかけ、日本の製造業は、欧米で発見された新しい原理とそれに基づいて創出された新しい製品・技術を導入して事業を拡大しました。70年代には、生産技術や応用技術の面で高度化をすすみ、脱ライセンス・自主技術開発へと進化し、80年代には技術立国としての地位を築き、欧米に追い付き成熟したとの認識が広まりました。しかし、実体としては新しい技術・製品を創造するという点で世

界をリードできる実力が不十分であったため、厳しい価格競争にさらされることになりました。そのため、技術立国として本来やるべきであった基礎から応用に至る絶え間ない技術革新と、新しい製品コンセプトの創造による新製品の開発がおろそかになり、20世紀の最後になって製造業の国際競争力の再構築の必要性が顕在化しました。日本の製造業は、“技術創造とモノ創り”という新たな挑戦目標を掲げ、技術立国の復権を目指さなければなりません。

当社においても、この認識に立ち技術力と商品力の再構築に取り組んでおります。世界的・長期的視点から社会に必要なとされる新しい製品は何か、また、それを可能にする技術は何か、といった視点を起点とした研究開発を強化しています。

2001年末に策定した中期事業計画（2002事計）では、“どのような環境にも耐え得る圧倒的技術力の構築”を掲げ、5年先、10年先にいかなる事業環境になろうとも耐え得る技術力を獲得することを目指しています。伸びる事業・伸びる市場として、エネルギー、交通・物流、社会・環境及びサービスの4つの分野を設定し、総合重工業メーカーとして有している幅広い人材と技術力を総動員しながら、次期製品、次世代製品のための研究開発や設備に投資し、若手技術者の活力を醸成する施策も強化しています。また、21世紀の価値創出型技術開発を図るため、当社が保有する幅広い範囲の技術に、新たな価値創造を可能にする先進技術革命との融合も進めています。

本特集では、エネルギー、交通・物流、社会・環境の各分野における三菱重工の基幹製品事業の過去・現在・未来を語ることにしました。これは“社業を通じて社会の進歩に貢献する”当社の伝統的经营理念の下に取り組んできた先人の業績を振り返り、次代に向かって限りない挑戦を続ける社員一同の決意を示したものであります。

各界の皆様方には、引き続き一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。発刊のご挨拶といたします。